

市民グループ インタビュー調査より

実施日	グループ	1グループの基本構成
平成13年9月13日	一橋学園駅・鷹の台駅間地区	高齢者(男性1名、女性4名)
平成13年9月25日	小平駅南側地区	主婦3名
	一橋学園駅東側地区	
平成13年12月20日	小平駅～一橋学園駅間地区	高齢者(男性2名、女性8名)
	一橋学園駅～鷹の台駅間地区	主婦4名

コミュニティバスに望むこと

- ▽時間どおりに運行してほしい
- ▽どの時間も同じ時刻のダイヤにしてほしい
- ▽住宅地をきめ細かく走ってほしい
- ▽缶ジュースと同じ片道120円までがいい
- ▽片道100円なら手軽だと思ふ
- ▽家の近くまで来たら200円でもうれしい
- ▽小平はよいまちだと思えるバスに走ってほしい
- ▽市民が一生懸命に育てるバスになるとよい



自転車は…

- ▽妊娠中は自転車に乗れないので、買い物の荷物が重くてたいへん
- ▽年をとって自転車に乗れなくなったときを考えると不安
- ▽雨の日は自転車に乗るのが怖くて出かけられない
- ▽マスコートや着物では自転車に乗れない
- ▽青梅街道は歩道が狭く、電柱もある
- ▽裏道は自転車が飛び出してくるので危ない

バスや電車は…

- ▽バス停で2時間も待っている高齢者を見かける
- ▽足の不自由な高齢の主人は10分歩くのが限界
- ▽1,000円のものを買うのに往復400円近くも払うバスには乗れない
- ▽いつ来るのか、本当に来るのかわからないのでバスは信用できない
- ▽5分早く出てバスが10分遅れると、15分も待つことになる
- ▽エレベーターやエスカレーターができたので小平駅を利用したい
- ▽駅が多いので住み始めたが、年をとるとどの駅へも不便で
- ▽どんどん田舎になる



グループインタビュー調査

アンケート調査は、すでにあるものについての意見を求めるときなどには、非常に有効です。しかし、まだ姿の見えないもの（例えばコミュニティバスのあり方）を作り上げようとするとき、アンケート調査では本音より建て前が入ってくるおそれがあり、その結果からは、本当に必要なシステムは生まれてきません。「この地域にコミュニティバスは必要ですか」といった質問に対し、70%が必要だと答えたとしても、実際の利用者は5%、10%だったという例が見られます。

グループインタビュー調査は、本音に少しでも近づこうとする調査で、これまで商品開発などに使われてきたものです。1人でも多くの人に買う気持ちを起こさせる商品を開発するための「消費者の本音」をつかむための調査方法と言えます。

近年、まちづくり、特に市民ひとりひとりの意識や行動に左右される公共交通計画や公共施設利用計画などの立案にも新しい手法として取り入れられるようになってきています。

グループインタビューの手法

8人前後のグループで、お菓子をつまみながら雑談から入り、参加者が雰囲気慣れてきたところで、質問者が雑談を交えて意見を伺っていきます。そして、次から次へと出てくる答えの中から「本音だな」と判断した声を質問者が記録します。ときには、予想もできなかった重要な発言が出てくることもあり、その大切な「本音の言葉」をていねいに拾いながら、まとめていきます。

この手法で得られるデータは、アンケート調査結果の数字だけで傾向を判断するものとは明らかに異なってきます。



1878790

小平市小川町二丁目1333番地

小平市役所
都市整備部 総合計画課 行



下記にご記入ください。

【性別】 男 ・ 女

【年代】 _____代

【住所】 小平市 _____

※町、丁目までで結構です。

この用紙を切り取り、裏面をしっかりとりのりづけして、切手はらずに5月20日(月)までに投函してください。

ご協力ありがとうございました。

問合せ
都市整備部総合計画課
☎042(346)9554